

神奈川県森林整備業務設計要領

改正

現行（令和4年4月版）

総則 省略
第1章 省略
第2章
1～6 省略
7 簡易施設設置歩掛

(1) 植生保護柵（防鹿柵）設置（有刺鉄線タイプ）（参考資料）

(100m 当り)

名称	品目	形状寸法	数量	単位	摘要
主線	亜鉛メッキ鉄線	4.0mm（#8）	330.00	m	100m×3本×1.1
	亜鉛メッキ鉄線	3.2mm（#10）	440.00	m	100m×4本×1.1
	亜鉛メッキ鉄線 （有刺鉄線）	3.2mm（#10）	440.00 (440.00)	m	100m×4本×1.1
補助線	亜鉛メッキ鉄線	2.0mm（#14）	516.36	m	397.2m×1.3
主杭	等辺山形網	L=2.50m 3×40×40mm	41.0	本	40+1本
補助杭	等辺山形網	L=0.50m 3×30×30mm	41.0	本	40+1本
金網	亀甲金網 （亜鉛メッキ）	1.2mm幅91cm網 目40mm	100.10	m ²	100m×0.91m×1.1
		1.2mm幅91cm 網目26mm	100.10	m ²	100m×0.91m×1.1
結束鉄線	亜鉛メッキ鉄線	#20	128.0	m	0.2m×16×40
支持線	亜鉛メッキ鉄線	#10	80.0	m	16m×5
普通作業員			11.21 (11.87)	人	

備考

- 1 本表は金網、線材、杭、扉の小運搬を含む。
- 2 木材杭においては先端仕上げを含む。
- 3 柵延長距離は斜距離とする。
- 4 必要に応じて支持杭の設置を別途計上することができる。
- 5 支持線は1箇所当り16.0mを標準とする。
- 6 金網の網目について、防兎を併用する場合は26mmを用いる。
- 7 構造については、地形等を勘案の上、適宜増減することができる。
- 8 主線に有刺鉄線を使用する場合は、（）書の数値を適用し、3.2mm（#10）亜鉛メッキ鉄線の440m分を置き換えて計上する。

総則 省略
第1章 省略
第2章
1～6 省略
7 簡易施設設置歩掛

(1) 植生保護柵（防鹿柵）設置（有刺鉄線タイプ）

(100m 当り)

名称	品目	形状寸法	数量	単位	摘要
主線	亜鉛メッキ鉄線	4.0mm（#8）	330.00	m	100m×3本×1.1
	亜鉛メッキ鉄線	3.2mm（#10）	440.00	m	100m×4本×1.1
	亜鉛メッキ鉄線 （有刺鉄線）	3.2mm（#10）	440.00 (440.00)	m	100m×4本×1.1
補助線	亜鉛メッキ鉄線	2.0mm（#14）	516.36	m	397.2m×1.3
主杭	等辺山形網	L=2.50m 3×40×40mm	41.0	本	40+1本
補助杭	等辺山形網	L=0.50m 3×30×30mm	41.0	本	40+1本
金網	亀甲金網 （亜鉛メッキ）	1.2mm幅91cm網 目40mm	100.10	m ²	100m×0.91m×1.1
		1.2mm幅91cm 網目26mm	100.10	m ²	100m×0.91m×1.1
結束鉄線	亜鉛メッキ鉄線	#20	128.0	m	0.2m×16×40
支持線	亜鉛メッキ鉄線	#10	80.0	m	16m×5
普通作業員			11.21 (11.87)	人	

備考

- 1 本表は金網、線材、杭、扉の小運搬を含む。
- 2 木材杭においては先端仕上げを含む。
- 3 柵延長距離は斜距離とする。
- 4 必要に応じて支持杭の設置を別途計上することができる。
- 5 支持線は1箇所当り16.0mを標準とする。
- 6 金網の網目について、防兎を併用する場合は26mmを用いる。
- 7 構造については、地形等を勘案の上、適宜増減することができる。
- 8 主線に有刺鉄線を使用する場合は、（）書の数値を適用し、3.2mm（#10）亜鉛メッキ鉄線の440m分を置き換えて計上する。

改正

現行（令和4年4月版）

(2) 植生保護柵（防鹿柵）設置（2次製品タイプ）

(100m 当り)

名称	形状寸法	数量	単位	摘要
金網	格子型 (835-GSSa-B型)、H=0.9m	220	m	上下2段張り
支柱	C型支柱 L=2.5m、金具5個付	41	本	
補助杭	羽根付アンカーピン L=0.44m、φ9mm	80(40×α)	本	※備考2
支持線	亜鉛メッキ鉄線 3.2mm (#10)	160	m	10m 間隔で施工
亀甲金網	亜鉛メッキ 1.2mm、幅 0.91m、網目 26mm	100.1	m ²	0.91m×100m× 1.1=100.1 m ²
結束鉄線	亜鉛メッキ鉄線 #20	208	m	亀甲金網施工時に 計上すること
頂部支持線	亜鉛メッキ鉄線 3.2mm (#10)	110	m	※備考3
支持線固定杭	等辺山形鋼 厚 3mm、辺 40×40mm、長 500mm	必要に応じて	本	※備考5
普通作業員	金網張り	(3.56)	人	
	支柱建込	(0.88)	人	
	補助杭設置	(0.43×α)	人	
	支持線設置	(0.64)	人	
	亀甲金網設置	(2.14)	人	
	頂部支持線 張直し緊張及び結束	(0.25)	人	※備考3
	100m 当り合計		人	

備考

- 「ア. 植生保護柵（防鹿柵）設置（有刺鉄線タイプ）」の備考を1～8を準用する。
- 補助杭は100mあたり80本（α=2）を標準とし現場条件により増減することができる。
- 頂部支持線及び亀甲金網の設置は必要に応じて計上することができる。
- 亀甲金網を設置する場合は、(8) 金網地中埋設に伴う切取及び埋戻を必要に応じて計上することができる。
- 周囲の状況に応じて支持線固定杭を計上することができる。

(2) 植生保護柵（防鹿柵）設置（2次製品タイプ）

(100m 当り)

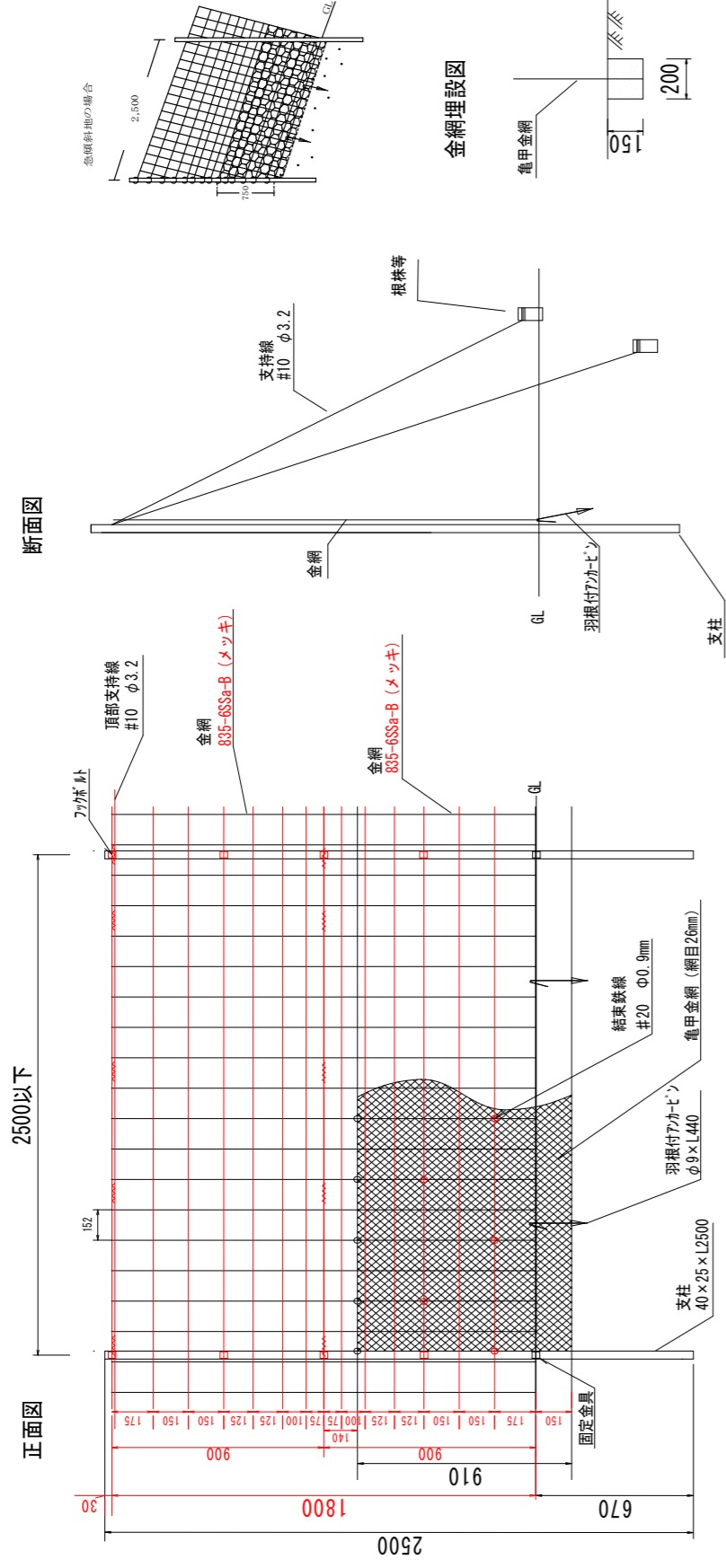
名称	形状寸法	数量	単位	摘要
金網	格子型 (835-6A型)、H=0.9m	220	m	上下2段張り
支柱	C型ポスト L=2.5m、金具5個付	41	本	
補助杭	羽根付アンカーピン L=0.44m、φ9mm	80(40×α)	本	※備考2
支持線	亜鉛メッキ鉄線 3.2mm (#10)	160	m	10m 間隔で施工
亀甲金網	亜鉛メッキ 1.2mm、幅 0.91m、網目 26mm	100.1	m ²	0.91m×100m× 1.1=100.1 m ²
結束鉄線	亜鉛メッキ鉄線 #20	208	m	亀甲金網施工時に 計上すること
頂部支持線	亜鉛メッキ鉄線 3.2mm (#10)	110	m	※備考3
支持線固定杭	等辺山形鋼 厚 3mm、辺 40×40mm、長 500mm	必要に応じて	本	※備考5
普通作業員	金網張り	(3.56)	人	
	支柱建込	(0.88)	人	
	補助杭設置	(0.43×α)	人	
	支持線設置	(0.64)	人	
	亀甲金網設置	(2.14)	人	
	頂部支持線 張直し緊張及び結束	(0.25)	人	※備考3
	100m 当り合計		人	

備考

- 「ア. 植生保護柵（防鹿柵）設置（有刺鉄線タイプ）」の備考を1～8を準用する。
- 補助杭は100mあたり80本（α=2）を標準とし現場条件により増減することができる。
- 頂部支持線及び亀甲金網の設置は必要に応じて計上することができる。
- 亀甲金網を設置する場合は、(8) 金網地中埋設に伴う切取及び埋戻を必要に応じて計上することができる。
- 周囲の状況に応じて支持線固定杭を計上することができる。

植生保護柵(防鹿柵)(2次製品タイプ)定規図

単位: mm



改正

材料表 植生保護柵(2次製品タイプ) (重量 359.7 kg/100m) 100m当り

名称	形状寸法	数量	重量	摘要
金網	835-6SSa-B(メッキ) W=900mm 0.4kg/m	220 m	88 kg	上下2段張り
支柱	C型支柱 L=2500mm 3.5kg/本	41 本	143.5 kg	止め金具含む
羽根付アンカーピン	L=440mm φ9mm 0.3kg/本	80 本	24 kg	
頂部支持線	亜鉛メッキ鉄線 #10	110 m	6.96 kg	
支持線	亜鉛メッキ鉄線 #10	160 m	10.13 kg	10m間隔で施工
亀甲金網	亜鉛メッキ鉄線 1.2mm、幅910mm、網目26mm	100.1 m ²	86.09 kg	
結束鉄線	亜鉛メッキ鉄線 #20	208 m	1.04 kg	

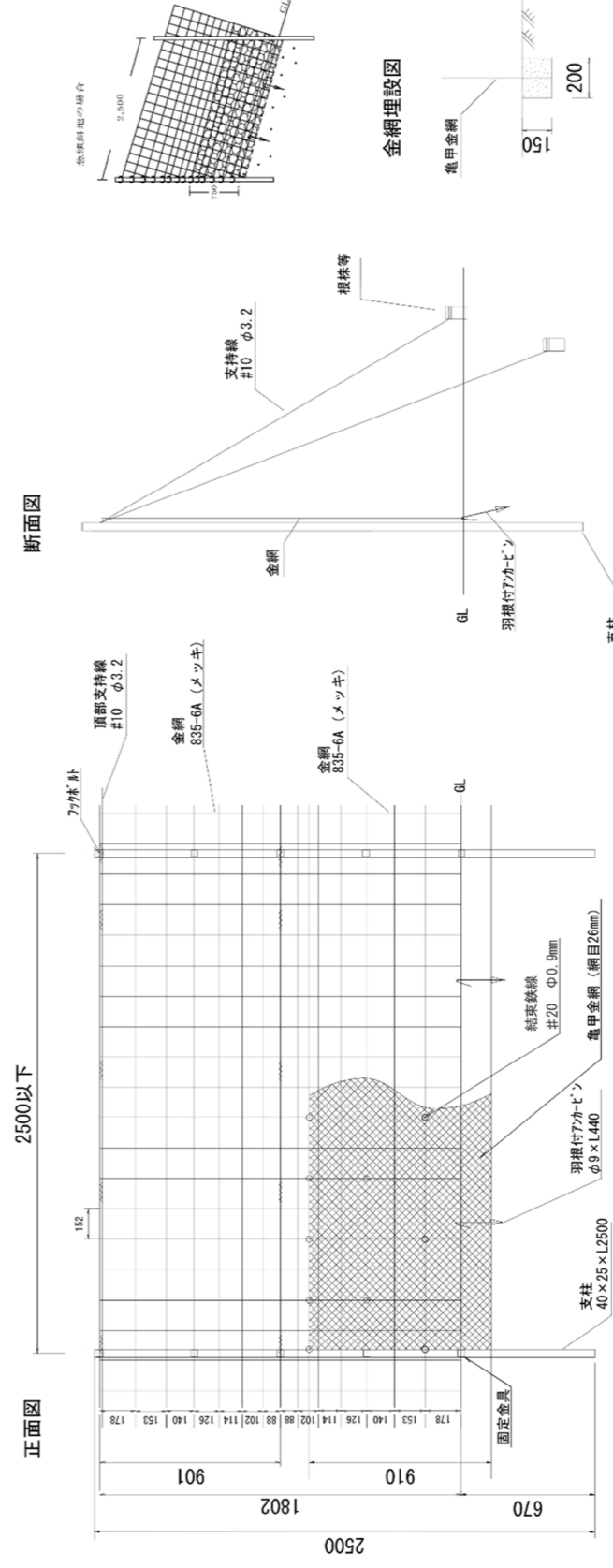
備考 柵延長距離は斜距離とする。

金網は、網目の狭い方が中央部分になるよう上下に配置し、それぞれをひねり合わせて結合させる。

原則として、金網は支柱の外側に設置する。

植生保護柵(防鹿柵)(2次製品タイプ)定規図

単位: mm



現行(令和4年4月版)

材料表 植生保護柵(2次製品タイプ) (重量 386.6 kg/100m) 100m当り

名称	形状寸法	数量	重量	摘要
金網	835-6A(メッキ) W=901mm 0.52kg/m	220 m	114.40 kg	上下2段張り
支柱	C型ポスト L=2500mm 3.63kg/本	41 本	148.83 kg	止め金具含む
羽根付アンカーピン	L=440mm φ9mm 0.24kg/本	80 本	19.20 kg	
頂部支持線	亜鉛メッキ鉄線 #10	110 m	6.96 kg	
支持線	亜鉛メッキ鉄線 #10	160 m	10.13 kg	10m間隔で施工
亀甲金網	亜鉛メッキ鉄線 1.2mm、幅910mm、網目26mm	100.1 m ²	86.09 kg	
結束鉄線	亜鉛メッキ鉄線 #20	208 m	1.04 kg	

備考 柵延長距離は斜距離とする。

金網は、網目の狭い方が中央部分になるよう上下に配置し、それぞれをひねり合わせて結合させる。

原則として、金網は支柱の外側に設置する。

改正

現行（令和4年4月版）

- 8 省略
第3章
1～2 省略
3 高性能林業機械による集材等（参考歩掛）

- (1) 省略
(2) グラップルローダ集材（木寄ウィンチ付き）

ア 日あたり集材量

フォワーダ 運材距離	100m まで	200m まで	300m まで	400m まで	500m まで	600m まで	700m まで	800m まで	900m まで	1,000m まで
日あたり 集材量 (m3)	35.0	29.3	25.0	22.0	19.5	17.5	16.0	14.5	13.5	12.5

備考 フォワーダ運材との併用を標準とする。

イ グラップルローダ集材（木寄ウィンチ付き）単価表

（運転1日あたり）

名称	規格	単位	数量	備考
特殊運転手		人	1	グラップルローダ運転
グラップルローダ	ベースマシン 0.25 m3 級 (新 JIS 0.28 m3)級	供用 日	1.67	1台（木寄ウィンチ付き）
軽油		ℓ	15	15ℓ×1台

- 備考 1 ウィンチを使用しなくてもグラップルローダのアームだけで集材できる場合に適用する。
2 （参考）運転日は供用30日あたり18日とした。

- (3) 省略
(4) フォワーダによる運材（グラップルローダによる荷下ろし併用）

ア 日あたり運材量

運材距離	100m まで	200m まで	300m まで	400m まで	500m まで	600m まで	700m まで	800m まで	900m まで	1,000m まで
日あたり 運材量 (m3)	35.0	29.3	25.0	22.0	19.5	17.5	16.0	14.5	13.5	12.5

イ フォワーダ運材単価表

（運転1日あたり）

名称	規格	単位	数量	備考
特殊運転手		人	1 (2)	フォワーダ、グラップルローダ両方を運転
フォワーダ賃料	3t 級	供用日	1.67	運転18日（供用30日）以上は長期割引単価を適用
軽油	フォワーダ用	ℓ	13	
グラップルローダ賃料	ベースマシン 0.25 m3 級 (新 JIS 0.28 m3)級	供用日	1.67 (3.33)	木寄ウィンチ付き 1台 (木寄ウィンチ付き 2台) 運転手は含まない

- 8 省略
第3章
1～2 省略
3 高性能林業機械による集材等（参考歩掛）

- (1) 省略
(2) グラップルローダ集材（木寄ウィンチ無し）

ア 日あたり集材量

フォワーダ 運材距離	100m まで	200m まで	300m まで	400m まで	500m まで	600m まで	700m まで	800m まで	900m まで	1,000m まで
日あたり 集材量 (m3)	35.0	29.3	25.0	22.0	19.5	17.5	16.0	14.5	13.5	12.5

備考 フォワーダ運材との併用を標準とする。

イ グラップルローダ集材（木寄ウィンチ無し）単価表

（運転1日あたり）

名称	規格	単位	数量	備考
特殊運転手		人	1	グラップルローダ運転
グラップルローダ	ベースマシン 0.25 m3 級 (新 JIS 0.28 m3)級	供用 日	1.67	1台（木寄ウィンチ無し）
軽油		ℓ	15	15ℓ×1台

- 備考 1 ウィンチを使用しなくてもグラップルローダのアームだけで集材できる場合に適用する。
2 （参考）運転日は供用30日あたり18日とした。

- (3) 省略
(4) フォワーダによる運材（グラップルローダによる荷下ろし併用）

ア 日あたり運材量

運材距離	100m まで	200m まで	300m まで	400m まで	500m まで	600m まで	700m まで	800m まで	900m まで	1,000m まで
日あたり 運材量 (m3)	35.0	29.3	25.0	22.0	19.5	17.5	16.0	14.5	13.5	12.5

イ フォワーダ運材単価表

（運転1日あたり）

名称	規格	単位	数量	備考
特殊運転手		人	1 (2)	フォワーダ、グラップルローダ両方を運転
フォワーダ賃料	3t 級	供用日	1.67	運転18日（供用30日）以上は長期割引単価を適用
軽油	フォワーダ用	ℓ	13	
グラップルローダ賃料	ベースマシン 0.25 m3 級 (新 JIS 0.28 m3)級	供用日	1.67 (3.33)	木寄ウィンチ無し 1台 (木寄ウィンチ無し 2台) 運転手は含まない

神奈川県森林整備業務設計要領

改正

軽油	グラップルローダ用	ℓ	15 (30)	150×1(2)台
----	-----------	---	------------	-----------

- 備考 1 グラップルローダ集材等によってフォワーダへの積込が連続して行われていない場合は()内を適用し、グラップルローダによる積込みを計上する。
- 2 本歩掛を適用する場合は、「表-3-24 素材桝積 (機械集材)」を計上しない。
- 3 (参考) 本歩掛ではフォワーダ本体にグラップル機構がないものと想定した。
- 4 (参考) 運転日は供用 30 日あたり 18 日とした。

現行 (令和 4 年 4 月版)

軽油	グラップルローダ用	ℓ	15 (30)	150×1(2)台
----	-----------	---	------------	-----------

- 備考 1 グラップルローダ集材等によってフォワーダへの積込が連続して行われていない場合は()内を適用し、グラップルローダによる積込みを計上する。
- 2 本歩掛を適用する場合は、「表-3-24 素材桝積 (機械集材)」を計上しない。
- 3 (参考) 本歩掛ではフォワーダ本体にグラップル機構がないものと想定した。
- 4 (参考) 運転日は供用 30 日あたり 18 日とした。